

解答

一

問一

A ウ B オ

問二

人間は少しも賢くなく無知であり、人間の賢さとは、ソクラテスのように自分の無知を自覚していることである。

問三

公共の場における公開の対話／反論と再反論のプロセス

問四

I いかに生きるべきか II 正しく

問五

(1) あ 骨 い 腱 う 国法 え 正しい

(2) お 事物が事実かくかくの状態にあるという考え方が 何故そうであるのかという考え方

問六

自分の生きている時代や周りの環境に即して、人間の生き方として正しい倫理を見つけ出し、それに基づいて考え、行動して生きていけばよい。

二

問一

I 恭子おばさん II ノア、ケルヴィン、ジェイク III 翔太、拓也

問二

真人がチロを死なせる覚悟を決めたことがわかったから。

問三

ノア：そんな言い方ないだろ！

問四

ケルヴィン：優勝なんかしなきゃいい！

問五

優しくったお母さんではなくなって、おこって悲しむこと。

問六

カップ麺ではなく、どんぶりに入っているラーメンを何ヶ月ぶりに食べたということから。

問七

お母さんの指の爪がピンク色に塗ってあったことから。

問八

チロ、今までありがとう。お母さんは心配して反対するだろうけれど、ぼくは合格した学校に行くことに決めたよ。チロのおかげかな。さようなら。

三

問一

(1) 主語：なし 述語：オ (2) 主語：なし 述語：ア

問二

(1) 虫 (2) 袋

問三

(1) 申しています (2) 召す

問四

ア

問五

(1) 棒読 (2) 郷里 (3) 敵 (4) 訳 (5) 縁側 (6) 補給

解説

一

問三

本文中盤に着目すると、「ソクラテスの哲学の方法は」ではじまる段落に、「反駁的対話とは基本的に公共の場における公開の対話である。」という記述があることがわかります。また、反駁的対話について、「こうして、この反論の再反論のプロセスは、根拠の方向へと深化しつつもやむことなく進行し、対話はたいていは明確な結論をえないまま終結する。」と述べていることから、「公共の場における公開の対話」と「反論と再反論のプロセス」の二つを抜き出します。

問四

I 「A」、『知恵』という名のもとに、「の後に着目すると、ソクラテスが人間の生き方についての知恵、「いかに生きるべきか」という問いに対する解答を問題にしていたことがわかります。

問五

II 本文最後の段落で「善く生きる」ということを言い換えると「正しく生きる」ということであると述べていることから、「正しく」が抜き出せます。

二

問二

お母さんに対して、「いい、決めたんだ、もう頑張らせたくない。苦しめたくない。眠らせてあげたい。」と話す多くの姿から理由がわかるので、ぼくがチロの安楽死を決心したことを書き表します。

問五

本文の中盤にある「お母さんがランチにラーメンを作ってくれた。カップ麺じゃなくて、どんぶりに入っているラーメンなんて何ヶ月ぶりだろう。」という記述から、お母さんが日本でラーメンを買ってきたことが考えられます。また、少し後に「東京でしてきたのか、指の爪がピンク色に塗ってあって、桜貝みたいに恥ずかしそうだった。」という記述があるので、この二つの内容を書き表します。